「事業名：人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践」

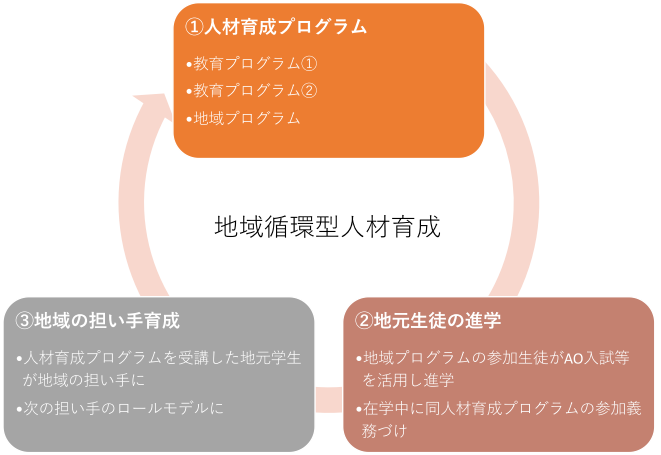
立命館大学（共同申請：東京大学、福島大学） 連携市町村：川俣町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村
現地拠点：双葉郡大熊町 大熊インキュベーションセンター

事業のポイント

本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災および原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域でのフィールド教育、また地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、大熊町・双葉町・浪江町・川俣町・葛尾村等の標葉地域を中心に実践する。

人材育成目標

原子力災害によって引き起こされた地域課題を解決する課題解決型学習を中心にして、「解のない課題」に挑戦する人材を育成する。



地域循環型人材育成プログラムの概要

2025年度の活動内容

■教育プログラム①･･･正課教育として東京大学（「原子力災害論」や「メディア・ジャーナリズム研究指導」等）・福島大学（「Fukushima Ambassadors Program」等）・立命館大学（「教養ゼミナール」等）において、講義系科目と演習科目の組み合わせによるPBL学習の実施。
■教育プログラム②・・・立命館大学を中心に「チャレンジふくしま塾」の正課外教育を実施。
■地域プログラム・・・福島大学において葛尾村での復興公営住宅を含む集落調査活動。地域の児童生徒を対象にした「チャレンジコミュニティーワークⅠ」や関係・交流人口拡大のための「チャレンジコミュニティーワークⅡ」のワークショップを実施。

取り組みによって得られる成果

地域課題解決の担い手育成：履修生　100名・地域児童・住民　50名
※将来構想･･･各大学の入試等を活用し、双葉郡の児童・生徒が3大学に進学。同人材育成プログラムを履修し、長期インターシップを受講することにより地域人材の育成。
関係・交流人口の拡大による地域の活性化。